

全日本けん玉道選手権大会の変動種目における技の解説と注意事項

～ 2026年開催 第48回大会変動種目 ～

①小皿極意～大皿極意～けん

【持ち方】

とめけんの持ち方に準じる持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。けんを動かして玉を回転させずに鉛直上方に引き上げて、玉の穴を利用して玉を小皿の縁に乗せて静止させる（小皿極意）。次いで、玉を投げ上げそのまま回転させることなく玉の穴を利用して玉を大皿の縁に乗せて静止させる（大皿極意）。最後に、玉を投げ上げそのまま玉を回転させずに玉の穴にけん先を入れる。

【注意事項】

- ・玉を回転させてはならない。
- ・玉を皿の縁に乗せる順番は、小皿の縁～大皿の縁にすること。
- ・小皿の縁、または大皿の縁に玉を乗せたとき、玉がけん先に触れることが可能な位置関係にないこと。（小皿うぐいす、大皿うぐいすにならないこと）
- ・連続技の途中の「小皿極意」、「大皿極意」の完成を確認するため、必ず一度けん玉と体を静止させること。
- ・玉の穴にけん先が完全に入ること
- ・つり下げた玉を小皿の縁に乗せる動作をするために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・玉を引き上げるなど技を開始した後に、玉を手で押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・「小皿極意」、「大皿極意」の静止の完了した状態から次の動作に移行する間に動いたけん玉を再び静止させ場合は中断してやり直しとは見なさない。ただし、故意にこれを行ったと判断されれば、修正行為と見なす。
- ・連続技における修正行為の禁止事項を守ること。

補足説明

- ・小皿極意→大皿極意の順です。大皿極意→小皿極意の順は認めません。

⑫ろうそく返しろうそく～けん

【持ち方】

ろうそくの持ち方

持ち替え後の持ち方 1, ろうそくの持ち方 2, とめけんの持ち方に準じる持ち方

【技の動作】

けん先を持ち、玉を下につり下げて構える。けんを動かして玉を引き上げて中皿に乗せる(ろうそく)。次いで、けん玉を空中に投げ上げ、けんを1回転させけん先をつかみ、玉を中皿に乗せる(ろうそく返しろうそく)。次いで、けん玉を空中に投げ上げ、けんを1/2回転させけんをつかみ玉の穴にけん先を入れる(～けん)。

【注意事項】

- ・「ろうそく」の乗せ方は、前振りでもうら振りでも可とする。
- ・「ろうそく」からけん玉を投げ上げる時のけんの回転の向きは問わない。
- ・「ろうそく返しろうそく」からけん玉を投げ上げる時のけんの回転の向きは問わない。
- ・「ろうそく」から、けんを1回転させけん先をつかみ、玉を中皿に乗せるとき、一度でも皿胴をつかんではいならない。
- ・「ろうそく返しろうそく」から、けん玉を空中に投げ上げ、けんを1/2回転させけんをつかみ玉の穴にけん先を入れる時、皿胴をつかんではいならない。
- ・玉の穴にけん先が完全に入ること
- ・技は片手で行うこと(ろうそく持ちをした手で、ろうそくの持ち方、とめけんの持ち方に準ずる持ち方に持ち替えること)。
- ・つり下げた玉を引き上げるために、玉を上下に動かす、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・手で玉を押さえずに構えている場合、玉を前後に振り始めた時点で技が開始されたと見なす。
- ・つり下げた玉を引き上げる、あるいは玉を振り出した後に再び手で玉を押さえた場合は動作を中断しやり直したと見なす。
- ・「ろうそく」完了後、または「ろうそく返しろうそく」完了後にけん玉を空中に投げ上げるために、膝をまげる、手を上下させる等の玉を空中に上げるための予備動作を開始した後に、一度静止させて再度やり直したなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・連続技における修正行為の禁止事項を守ること。

補足説明

・「ろうそく」から、再度ろうそくの持ち方へと持ち替えるときに、他種目では、「皿胴をつかんではいならない」とルール化されていても、最終形で皿胴をつかんでいなければ、持ち替え中に皿胴をつかむことは認めておりますが、この持ち替え動作では認めません。(ただし「ろうそく返しろうそく」から「～けん」のために持ち替えるときは、最終形で皿胴をつかんでいなければよいです。)

・持ち替え後のろうそくの持ち方は、少なくともけん先を持つのに親指が使われていない場合は、ろうそくの持ち方とは認めません。